

令和6年度 第1回茨木市駅前周辺整備基本計画協議会における主な意見と市の考え方

	分類	委員意見	市の考え方
1	駅前機能	・駅前周辺整備の方向性等について、説明資料から各駅前（ＪＲ茨木、阪急茨木市）の特色が感じられない。 ・日常生活において、市民は近い駅を利用しているだけであることから、基本的な生活利便性向上の議論をすべきであり、日常生活に合った駅前機能が求められているのではないか。	上位計画の位置付け等から、両駅前に必要な基本機能について、明確な違い（特色）はありませんが、広域特性やまちの成り立ち等を踏まえ、整備イメージの資料に違いを記載しました。
2	公共交通	・基本計画におけるタクシーの役割について、考え方を確認したい。	鉄道、路線バスと同様にタクシーも公共交通機関と考えています。（資料に『タクシー』を追記しました）
3	その他	・駅前機能における「魅力・賑わい」は、市民の意見やイメージが大事であることから、もう少しソフト面の提案をするべきではないか。	ソフト面の取組については、方向性までを定める考えであり、施設の導入機能は次の段階（事業計画等）で検討する予定です。
4	中心市街地	・中心市街地内の寺社や広場等の空間について、役割やネットワークのイメージを共有し、整備の方向性を示す必要がある。	中心市街地内において、パーク（おにクル・中央公園）が交流拠点の役割を担っていることから、両駅前の広場は繋がりを踏まえつつ、各駅前周辺のニーズに沿った規模や設えとする考えであり、整備基本方針にイメージを記載しました。
5	駅前機能	・駅前の機能について、「都市機能」、「交通機能」、「安全・安心」を基本に、価値として「魅力・賑わい」があるが、基本計画では重要な順に記載すべきであることから、順番も検討いただきたい。	いずれの機能も重要であり、各機能は相互に関係しますが、中心市街地活性化及び基本計画の策定目的である官民連携の観点から、「魅力・賑わい」、「都市機能」、「交通機能」、「安全・安心」の順番としました。
6	駅前機能	・ＪＲ茨木駅前周辺は産業の可能性があると思うが、「将来の茨木市を支える新しい産業の芽をどう作るのか」という視点の議論が少ない。	産業分野の企業ニーズについては、事業計画の検討段階においてニーズ把握を検討する旨を、今後の検討課題として記載します。
7	円滑な事業化	・次の段階（事業計画等）では、他部局との連携やタイムスケジュールの整理が必要である。	事業計画の策定段階における検討事項として、整理いたします。
8	中心市街地	・中心市街地の自動車交通について、通過交通の流入抑制を前提に計画を策定するのか確認したい。	中心市街地の東西軸については、歩行者・自転車の通行に配慮した道路空間の再編の検討を進めていることから、通過交通の流入抑制を前提に計画を策定いたします。
9	その他	・各駅前の事業熟度が異なることから、これまでの経過を整理し、計画の策定を進めるべきではないか。	これまでの経過については、参考資料にまとめました。また、事業熟度の違いについては、土地利用ゾーニング図等に反映させています。
10	土地利用ゾーニング	・阪急茨木市駅西口駅前周辺整備の土地利用ゾーニング図について、商店街への誘導が重要と考えており、動線は記載されているが目的等の説明も必要ではないか。	2コアからの人の流れは重要な視点であることから、新たに作成した『中心市街地の人の流れ』に主な動線として記載するとともに、土地利用ゾーニング図に目的を記載しました。
11	土地利用ゾーニング	・阪急茨木市駅東口の駅前広場について、企業・学校の送迎バスは西方向への発着が多いことから、東口を中心にする交差点処理に課題は生じないか。	交差点処理等の課題は認識しておりますが、西口の検討に際して、長期的なまちづくりの検討項目として示したものです。